

各 駅 停 車

回 覧

社会福祉法人豊田市福祉事業団
No.36 2012. 3. 10

福祉と障がいのある人を理解するための情報紙

大人への第一歩！そして誓い！



～障がい者総合支援センター 新成人の祝い開催～

1月20日(金)、障がい者総合支援センター3施設合同で新成人を祝う式典を開催しました。今年、けやきワークスより1名、暖より1名、第二ひまわりより3名の方が成人を迎えられ、式典では先輩から「二十歳の火」を受け継ぎ、お花をプレゼントしました。最後に新成人一人ひとりが誓いの言葉を述べ、堂々とした姿に会場は拍手喝采でした。



笑顔がいっぱい福祉事業団の仲間たち =中央図書館企画展示へ出展しました=

2月2日(木)～2月12日(日)までの11日間、豊田中央図書館5階企画展示コーナーにおいて、事業団の企画展示をしました。今年は「笑顔いっぱい福祉事業団の仲間たち」をテーマに写真のモザイクアートを作成。展示ケースには、こども発達センター利用児らが製作した数々の絵画や作品が、障がい者総合支援センターからは、利用者の作った雑貨や書道など、個性あふれる温かい作品が並びました。中央図書館を利用された方々が足を止めて作品に見入ったり、感想を書いてくださり、多くの方に事業団について知っていただく機会となりました。ありがとうございました。



あおぞらの歩みとこれから =地域療育室・あおぞら=



地域療育室あおぞらは、ことばがでない、友だちと遊ばない、かんしゃくが強いなどの問題をかかえている子どもさんに対して、週1～2回親子で通ってもらい、一緒に遊びながら全体発達を促進させています。

平成元年に「あおぞらルーム」として始まり、平成8年の豊田市こども発達センターの設立からは「あおぞら」となりました。25年間療育の現場に従事してきた地域療育室酒井室長にこれまでのあゆみとこれからについてインタビューしてみました。

① これまでのあおぞらの中で心に残ったことは何ですか。

ある親子の話です。子どもさんはおとなしい子で一緒にくるお母さんもとても穏やかな方、あまり心配ないと思っていました。しかし、後で告白されてわかったのですが、あおぞらに通うまで、家庭では子どもさんにとっても厳しくあたっていたそうです。あおぞらにいるときと家庭では全然が違っていたのです。外見だけでは判断できないことがたくさんあることを教わりました。その親子はあおぞらの活動の中で生活にリズムができ、他の保護者や先生とも親しくなり、本当に穏やかに生活できるようになりました。

② あおぞらに通う利用児、保護者そして職員の元気の源は何ですか。

みんなの「笑顔」です。あおぞらに通う前の子どもさんとその保護者は不安や悩みをたくさんかかえて通いだします。そして受け入れる職員も心配がいっぱいです。それが、だんだん打ち解けて「笑顔」が見られるようになり、やがて明るい笑顔があふれることですね。

③ これからどのような「あおぞら」を目指しますか。

これまで以上に「開かれたあおぞら」そして「開かれた豊田市こども発達センター」になることです。そのために気軽に相談でき、頼ってもらえる「あおぞら」になることをこれからも目指していきます！



対人支援の基礎をふりかえろう！ =障がい者福祉従事者研修を開催=



2月7日（火）、障がい者就労・生活支援センターは豊田市内の障がい者福祉に従事する方を対象に「障がい者福祉従事者研修」を開催し、24名の方が参加しました。今回は中京大学の小川みのり先生に『コミュニケーションの基礎ーパズティックの7原則をふりかえりながらー』というテーマで講演と演習をしていただき、対人支援の基礎を振り返るとても有意義な研修になりました。

かわいい笑顔に囲まれながらすごしませんか！ =『こどもひろば』託児ボランティア募集=

- ◆活動場所 豊田市こども発達センター内 こどもひろば
- ◆活動日時 週月曜日～金曜日の10時から12時30分まで
- ◆活動内容 療育に参加している子どもの兄弟姉妹の託児
- ◆お問合せ 豊田市こども発達センター 藤村（なのはな施設長）
- ◆電話 0565-32-8983
- ◆FAX 0565-32-8987

※託児経験の有無は問いません。子どもが好きな方ならどなたでも。



編集発行 社会福祉法人 豊田市福祉事業団

〒471-0062 豊田市西山町2丁目19番地 電話 0565-32-8980 FAX 0565-32-8987

E-mail fukushijigyodan@city.toyota.aichi.jp ホームページ <http://www.fukushijigyodan.toyota.aichi.jp/>